



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(5月16日付イラン報道)

1. 石油大臣発言 (16日付テヘラン・タイムズ紙)

ガーセミー (Rostam Qasemi) 石油大臣は15日、イラン産原油の輸出は減少していないと述べた。また、3,000万バレルの原油をタンカーに貯蔵しているとの報道も否定した。ガーセミー大臣は、第二次補助金改革が実現した場合、ガソリン価格は上昇するだろうと発言したが、どの程度上昇するかについては政府と国会が決めることだとした。ガソリン価格は現在、月々50リットルまでが1リットル当たり4,000リヤル(33セント)、50リットル以上が1リットル当たり7,000リヤル(57セント)となっているが、14日にイラン国会が補助金削減額を現在の440億ドルから538億ドルにすることを認めたため、政府はエネルギー価格を上昇することができる(注; OPECはイランの原油生産量が日量319.6万バレルに減少していると発表した。業界関係者の間では、イラン産原油の輸出量は昨年の日量220万バレルから、現時点で120万バレル程度に落ち込んでいるのではないかと見られている)。

2. インフレ率 (16日付イラン・ニューズ紙)

イラン中央銀行は、イラン暦(1391年)ファルバルディーン月(2012年3月20日~4月19日)における前年比インフレ率が21.8%であると発表した。イラン国会のナーデラーン議員は最近、国民は60%のインフレ率に苦しんでいると述べていた[注; 国会議員の他、ラフサンジャーニー公益評議会議長などから、政府の発表する経済指標(インフレ率、失業率、雇用創出者数など)は現実性を欠いているとの批判がなされている]。

3. トルコによるイラン産原油輸入量の増加 (16日付テヘラン・タイムズ紙)

トルコ統計協会(Turkish Statistical Institute)が発表した内容によれば、トルコの3月におけるイラン産原油輸入量は、2月の40万1,349トン(日量10万バレル)から、117万4千トン(日量約27万バレル)へと急上昇した。ただし、業界関係者からは、4月の輸入量は日量14万バレルへと減少し、5月も同様であると予測されている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799